

<家庭との連携>

- ・基本的な生活習慣や生活リズムが、子どもの健康な体をつくるために大切であることを繰り返し伝える。
- ・成長への期待や見通しをもって、その子らしい成長の様子を理解してもらうようにする。
- ・自分でしようとする姿を保護者が見守ったり励ましたりすることで、成長していくことを伝える。
- ・子どもが自分でできる喜びを感じられるように、着脱しやすい服や靴を準備してもらうように伝える。
- ・健康面や感染症の予防や対処について、健康状態を伝え合いながら情報を提供していく。

Ⅲ期（9・10・11・12月）	Ⅳ期（1・2・3月）
○保育者や友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ	○寒いときでも戸外で体を動かして遊ぶ ○保育者に見守られながら身の回りのことを自分でしようとする
・保育者や友達と一緒に、体を動かして遊ぶことの楽しさが味わえるような音楽や遊びを取り入れる ・伸び伸びと体を動かして遊べる環境を設定する ・自然に触れながら歩くことの楽しさが経験できるように散歩や遠足に行く	・保育者や友達と一緒に楽しめるような集団遊びを取り入れる（鬼ごっこ、かくれんぼ、ひっこしゲーム、しっぽとり等）
・身の回りの始末をすることに気付くような言葉をかける ・生活の流れの中で、身の回りの始末を自分でしている姿を認めることで、自信につなげていく	
・排泄の仕方を知らせ見守り、確認したり自分でしようとする姿を認めたりする	・尿意や便意を事前に知らせる姿を認め、自分でトイレに行くことができるように励ます
・遊具・用具の安全な使い方を知らせ、楽しく遊べるようにする	・けがをしたときは、保育者に知らせるように伝える
	・手洗いやうがい病気の予防になることを丁寧に知らせ、自分でするように促す ・湿度や室温を適度に保ったり換気をしたりして、健康に過ごせるようにする
・避難訓練では日頃から保育者の話を聞き、一緒に行動できるように繰り返し伝える	
・苦手な物も食べてみようとする気持ちをもてるように、言葉をかけたり励ましたりする	・食事の機会や遊びを通して、スプーンやフォークから箸へ移行できるよう、手を添えながららせていく

(2) 3歳児

3歳児のカリキュラム

<発達の姿>

- 話し言葉の基礎ができて「なぜ」「どうして」など、盛んに質問し、いろいろなことへの興味や関心が高まっていく。
- 友達への関心が高まり、関わりをもって遊ぼうとするが、自分の思いを押し通そうとする姿が見られる。
- 日常生活において経験したことをごっこ遊びに取り入れ、少し先を予想したり、期待をもって行動したりするようになる。
- 基本的な運動機能が伸び、食事、排泄、衣類の着脱等もほぼ自立するようになる。

			I 期（4・5月）	II 期（6・7・8月）
期のねらい			○新しい環境に慣れ、安心して過ごす ○遊びや生活に必要な約束やきまりを知る	○身近な環境に関心をもって自ら関わろうとする ○自分でできることは自分で行うとする
子どもの育ち	知		○集団生活に必要な挨拶や、適切な言葉を知る ○身近な環境に興味や関心をもって遊ぶ	○自分の思いや要求を伝えようとする ○生活の中でいろいろな物に触れ、それらの特徴に気付く
	徳		○指導者や友達に親しみをもって関わる ○集団生活のきまりを知る ○身近な自然や動植物に興味や関心をもつ	○指導者に手伝ってもらいながらも、自分でできることはしようとする ○指導者や友達と一緒に遊ぶ中で約束やルールがあることを知る
	体		○好きな遊びを見つけて楽しむ ○身の回りの始末の仕方を知る ○遊具の安全な使い方を知る ○指導者や友達と一緒に食事を楽しむ	○砂や土、泥、水等の感触を楽しみながら全身を使って遊ぶ
教育的意図をもった働きかけ	知	言語	・安心して自分の思いを出せるように子どもの気持ちを受け止め、言葉を引き出していく ・生活や遊びに必要な言葉を使う機会を多くもち、適切な言葉に気付かせていく	
		思考	・形・色・数等に関心がもてるように生活や遊びに取り入れる ・身の回りの事物への好奇心が育まれるように、環境を整え、関わっていきけるようにする	
		創造	・感触を十分に味わえる素材を用意する ・指導者や友達と一緒に、聞いたり、歌ったり、手遊びをしたりする活動を取り入れ、音やリズム、メロディに親しめるようにする	
	徳	人と関わる力	・安心して過ごせるように指導者とのふれあいを大切にする ・身の回りのことを自分で行うという気持ちが育まれるように、励ましたり援助したりする ・いろいろな友達と触れ合い、親しみや思いやり、憧れの気持ちがもてるようにする ・国旗、国歌があるということを感じられるようにする	
		規範意識	・生活や遊びの中で、してはいけないこと、危ないことがあること等を繰り返し知らせしていく ・集団生活の中できまりある生活ができるように指導者が手本となり知らせる	
		生命の尊重	・自分の誕生日を祝ってもらい喜びが感じられるようにする ・身近な自然物を見たり触れたりし、興味や関心がもてるようにする	
	体	運動	・体を動かすことに興味や関心がもてるように遊びたくなるような場や遊具を用意する	・砂や泥、水等の感触を楽しみ、全身を使って開放感を味わえるような環境を整える
		基本的な生活習慣	・身の回りの始末を自分で行えるように手順を知らせる ・手洗い、うがいの生活習慣を知らせる ・歯を大切にすることを知らせる	
		健康・安全	・遊具の安全な使い方や、約束等を繰り返し分かりやすく伝える ・安全に水遊びができるように約束を知らせるとともに環境に十分留意する ・園所外に出かける際の交通ルールやマナーを知らせる	
		食育	・指導者や友達と楽しく食事ができるような雰囲気をつくる ・いろいろな食べ物への興味や関心をもてるように、食事や栽培等を工夫する	

<家庭との連携>

- ・子どもが自分の思いを伝えられるように、気持ちを受け止め、寄り添う大切さを知らせていく。
- ・自分の力でしようとする姿を認め、励ますことを伝え、保護者と共に子どもの成長を喜ぶ。
- ・基本的な生活習慣や生活リズムが、子どもの健康な体をつくるために大切であることを伝え、連携を図る。
- ・保護者の状況を踏まえ、気持ちを十分に受け止め、子ども一人ひとりに適した配慮や助言等を一緒に考え、相互の信頼関係を築いていく。

Ⅲ期（9月・10）	Ⅳ期（11・12月）	Ⅴ期（1・2・3月）
○みんなで活動するときの約束やきまりを知り、守ろうとする ○友達と一緒に体を十分に動かして遊ぶ	○友達といろいろな遊びを通して、自分の思いを表現する ○友達と一緒にルールのある遊びを楽しむ	○友達と一緒に遊びを楽しむ中で、相手の思いに気付く ○進級することに期待をもつ
○いろいろな場面で「なぜ」「どうして」等の質問をする ○身近な環境に自ら働きかける ○音楽を聴いて、体を動かすことを楽しむ	○絵本や物語に興味をもつ ○自分らしい表現を楽しむ	○指導者や友達と、言葉のやり取りを楽しむ ○進級することに期待をもつ
○友達と一緒に遊ぶ中で自分の思いを出す ○遊びの約束やルールを守ろうとする	○友達といろいろな思いに気付く	○進級することに期待をもつ
○友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ	○寒いときでも戸外で元気に体を動かして遊ぶ	○身の回りのことを、見通しをもってしようとする
・指導者との会話を楽しむ機会をつくることで、友達との言葉のやり取りにつなげていく	・絵本や物語の世界に触れる活動を繰り返しもつ	・思ったことを友達に伝えたり相手の思いを聞いたりできるように、見守ったり助言したりする
・狭い、広い等が生活や遊びの中で気付けるようにする。	・身近な自然物を使って遊ぶ機会がもてるようにする	
	・身近な素材や用具を使ってかいたり、つくったりすることを楽しめるようにする	
	・音楽を聴いて踊ったり、身近な楽器を鳴らしたりすることを楽しめるような経験を重ねていく	
・自分の思いや考えを十分に表現できるように、子どもの思いを受け止め、引き出していく	・進級への期待がもてるような活動を取り入れる	
・友達と一緒に過ごす楽しさが感じられるように、指導者が仲立ちとなる	・互いの思いが違ったときには、相手にいろいろな思いがあることを機会を捉えて知らせる	
・きまりのある活動を通して、ルールを守る大切さを知らせる	・約束やきまりを守ろうとする気持ちが育まれるように、繰り返し知らせる	
・身近な自然物に触れることを通して、自然の移り変わりに気付けるようにする	・指導者と一緒に小動物の世話をしながら、命の大切さに気付けるようにしていく	
・子どもの興味や関心に応じて、体を動かして遊ぶ場をつくっていく ・友達と継続して戸外での遊びが楽しめるように工夫していく ・簡単な目標をもって取り組める遊びを考えていく		・4・5歳児の活動を自分もしてみたいという意欲がもてるようにしていく
・身の回りの始末が自分でできたことを認め、自信につなげる	・見通しをもって身の回りのことが自分でできるように励ましたり認めたりする	
	・手洗い、うがいを丁寧にすることがかぜ様疾患等の病気の予防になることを知らせる	・遊具、用具の安全な使い方を確認し、約束を守って遊べるようにする
・運動遊びを楽しく安全にできるように、用具の安全な使い方を確認する		
・けがをしたときや気分が悪くなったときは、指導者に知らせるように促す		
・いろいろな食材を食べることが体の成長や元気につながることを知らせ、バランスよく食べようとする気持ちを育む		

< 発達の姿 >

- いろいろな経験をする中で、思ったことや考えたことを自分なりの言葉や方法で表現しようとする。
- 新しい環境に慣れ、安心して過ごすようになるにつれ、身近な環境に興味や関心をもち、自ら関わっていくようになる。
- 身近な素材に触れ、手指を使ってかいたりつくったりすることが楽しめるようになる。

		I 期（4・5月）	II 期（6・7・8月）
期のねらい		○身近な環境に興味や関心をもち	○身近な環境に興味や関心をもち て関わろうとする
教育的意図をもった働きかけ	言語 (聞く・話す・コミュニケーション・文字等)	・安心して自分の思いを出せるように、子どもの気持ちや表現しようとしている姿を受け止め、言葉を引き出していく ・指導者が望ましい言葉で話すことで、挨拶や適切な言葉に気付けるようにしていく ・友達への関心がもてるように、友達の 名前を知らせる ・身近な人と話す機会をつくり、指導者が丁寧に応じることで、自ら話したいという気持ちを育む ・集団生活や遊びの中で必要な言葉を繰り返し知らせる ・指導者の話に興味をもち、聞く態度が育まれるような内容や伝え方を工夫する ・絵本や紙芝居等を一緒に見る機会を多くもち、物語に興味がもてるようにする	
	思考 (数量・図形・空間認識・自然科学等)	・園所内のいろいろな場所や部屋、園所庭等を知らせる ・形や色等で遊具を分類して片付けられるように環境を整える ・身近な物の形や色、大きさ、長さ、数、量等に気付けるように生活や遊びに取り入れる ・身の回りの事物、事象に対する「なぜだろう」「不思議だな」という気付きを受け止め、好奇心を育てていく ・身近な自然に興味や関心がもてるように、園所内の飼育栽培物を見たり、触ったりできるようにしていく 事例 20 ・体感を通して、季節や事象に気付けるようにしていく	
	創造 (造形・音楽・身体表現等)	・手指を使ってつくる活動が十分できるように、身近な素材に存分に触れる機会をつくる 事例 20 ・パスや水性ペン等で自由にかける楽しさを十分に味わえるように環境を整える ・はさみの正しい持ち方や使い方を知らせる ・指導者や友達と一緒に歌ったり、手遊びをしたりする活動を工夫し、音やリズム、メロディに親しめるようにする ・指導者や友達と一緒に体を動かしたり、リズム遊びをしたりする中で、楽しさを感じられるようにしていく 事例 18	

<家庭との連携>

- ・子どもが自分の思いを伝えられるように気持ちを受け止め、寄り添う大切さを知らせていく。
- ・子どもが遊びの中で気付いたり、不思議に思ったりする姿を具体的に伝え、興味や関心が高まっていることを共に喜ぶ。
- ・子どもの表現を温かく受け止め、自ら伝えたいという意欲を育てる大切さを知らせる。

Ⅲ期（9・10月）	Ⅳ期（11・12月）	Ⅴ期（1・2・3月）
○身近な環境に関わりをもつ		○身近な環境に自ら関わろうとする
・知りたいこと、分からないことは自分で尋ねるように促す ・自分の要求を伝えたいという思いを受け止め、伝えるための適切な言葉を知らせる ・子どもの質問に対して丁寧に応じ、やり取りを楽しめるようにする		・思ったことを友達に伝えたり相手の思いを聞いたりできるように、見守ったり助言したりする
・指導者との会話を繰り返し楽しめるようにし、友達との言葉のやり取りにつなげていく ・絵本や紙芝居等を繰り返し読み聞かせ、言葉のリズムのおもしろさに気付けるようにする		・絵本や紙芝居等を見ながら、思ったことを話す機会をもつ ・絵本や物語の登場人物になって言葉のやり取りを楽しめるように遊びを工夫する
		・いろいろな形を組み合わせて見立てることを楽しむ経験を重ねる中で、それぞれの形の特徴に気付けるようにする
・生活や遊びを通して、自分の前後や上下等、機会を捉えて知らせる ・狭い、広い等が生活や遊びの中で、気付けるようにする		・時間の感覚につなげていけるように、昨日、今日、明日等の言葉を生活の中で意識して話すようにする
・経験したことをかいたりつくったりするなどを通して、様々な方法で表現できるようにする ・自分のつくった物で遊ぶことが楽しめるような環境を整える ・つくったものを見立て、ごっこ遊びに使って楽しめるようにする ・身近な素材や自然物を使ってかいたりつくったりする活動を楽しめるようにする ・身近な楽器を鳴らす楽しさを味わえるようにする ・音楽やリズムに合わせて身体を動かし、身体全体で表現する楽しさを味わえるようにする		事例 24 ・歌ったり、楽器を鳴らしたり、踊ったりするなど、友達と一緒に様々な表現を楽しめるようにする ・経験したことや絵本等からイメージをもてるようにし、いろいろな役になって表現する楽しさを味わえるようにする 事例 24

< 発達の様子 >

- 4月当初は、指導者と過ごす中で、少しずつ新しい環境に慣れていく。やがて、友達に関心を向けながら園所での生活を楽しみ、気の合う友達と自分の思いを出し合いながら生活するようになる。
- 友達や物への関心が高くなるとともに、物の取り扱いや思いの食い違い等の中で、自分の思いを通そうとする姿が出てくるが、その一方で、きまりを守ることの大切さに気付いて、守ろうとするようになる。
- 指導者と一緒に動植物に触れる中で、興味や関心をもつようになる。

		I 期（4・5月）	II 期（6・7・8月）
期のねらい		○ 新しい環境に慣れ、安心して過ごす ○ 新しい環境での生活の仕方を知る ○ 遊びや生活に必要な約束やきまりがあることを知る	○ 自分でできることを自分なりにしようとする
教育的意図をもった働きかけ	人と関わる力 (自立心・思いやりの心 協同性・道徳心等)	・ 新しい環境のもとで安心して過ごせるように、指導者と触れ合う機会を多くもつ ・ 自分でしようとする意欲が育まれるように、「できた」喜びに指導者が共感し、認めていく ・ 親しみをもって周囲の友達に関われるような遊びを取り入れる ・ 4・5歳児と一緒に過ごす時間をもつことにより、安心して過ごせるようにする ・ 親しみや思いやり、憧れ等の気持ちがもてるように、いろいろな友達が遊ぶ様子を見たり、一緒に遊んだりする機会をもつ ・ 挨拶の気持ちよさを味わえるように指導者が一緒にしていく ・ 機会を捉えて、国旗、国歌があることを知らせていく	
	規範意識 (社会生活の ルールを守る心等)	・ 生活や遊びの中で、してはいけないこと、危ないことがあることを知らせていく ・ 集団生活の中で指導者が手本となり、きまりがあることを知らせ、少しずつ理解できるように繰り返し伝える ・ 遊具や道具の使い方を分かりやすく伝えたり、4・5歳児が使っている姿を一緒に見たりする機会をもち、遊具や道具を正しく安全に使えるようにする ・ 自分の持ち物を大切にし、片付ける気持ちよさを感じられるように環境を整えたり、一緒にしながら、片付け方を知らせたりしていく	
	生命の尊重 (命の大切さを 感じる心等)	・ 身近な自然や動植物に興味や関心をもてるように、指導者と一緒に触れたり、飼育栽培して見たりする機会をもつ ・ 生活の中で、自然の移り変わりに気付いていくように、言葉をかけたり環境をつくったりする ・ 自分の誕生日を祝ってもらった喜びを感じる中で、自分が大切に思われていることを伝えていく	

<家庭との連携>

- ・人への関心が高まり、友達との思いの違いも出てくるが、互いの思いを伝えながら、保護者の気持ちに寄り添って一緒に子どもの育ちを見守っていく。
- ・日々の保育や家庭での子どもの様子を伝え合い、生活の中での約束について共通理解を図る。
- ・集団生活の中での子どもの成長を知らせ、自分のことは自分でしようとする気持ちや態度が育っていくよう、家庭でも励ましや言葉がけをしてもらう。

Ⅲ期（9・10月）	Ⅳ期（11・12月）	Ⅴ期（1・2・3月）
○友達とのいろいろな遊びを通し、自分の思いを言葉や表情、態度で表現することを楽しむ		
○進級への期待をもつ		
○みんなで活動するときの約束やきまりを知り、守ろうとする		
○友達と一緒に遊びを楽しみながら、相手の思いに気付く		
・自分の思いや考えを自分なりに表現できるように気持ちを受け止め、それが相手に伝わるように仲立ちをする 事例 25		
・自分のことは自分でしようとする力を身に付け、進級に向けての自信につなげられるようにする		
・指導者が仲立ちとなって友達を誘い、一緒に遊ぶ楽しさが感じられるようにする 事例 23		
・お互いの思いが違ったときには指導者が仲立ちとなり、いろいろな思いがあることを知らせ、相手の思いに気付けるようにする		
・園所以外の人と触れ合う機会をもち、いろいろな人と親しめるようにする		
・進級への期待がもてるように、4歳児と一緒に遊んだり、教わったりする活動を取り入れる 事例 25		
・生活や遊びの中で、してよいこと悪いことに気付き行動できるように、繰り返し伝えていく		
・生活や遊びの中で、交代したり順番に使ったりするなど、約束ルールを守ることの大切さを知らせる 事例 22		
・約束やルールを守る大切さに気付き、守ろうとする気持ちが育くまれるように、繰り返し知らせていく		
・友達と一緒に遊具で遊んだり、一緒に片付けたりしながら、共同の遊具を大切に扱うことを知らせていく		
・身近な自然に触れ、自然の移り変わりに気付けるようにする		
・草花の芽吹きや陽ざしの暖かさに触れ、春の訪れを感じられるようにする		
・指導者と一緒に小動物の世話をし、生命の大切さに気付かせていく		

< 発達の様子 >

- 立つ、座る、寝ころぶ、起きる、回る、転がる、渡る、ぶら下がるなどの「体のバランスをとる動き」、歩く、走る、はねる、跳ぶ、登る、下りる、はう、よける、すべるなどの「体を移動させる動き」といった基本的な動きが、おおむねできるようになり、友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむようになる。
- 身の回りの始末を指導者と一緒にしながら、次第に自分でできるようになっていく。
- 健康で安全な生活を送るための習慣を、指導者と一緒に繰り返しながら身に付けていく。
- 友達と一緒に食べることを楽しみ、食事の準備や後片付けが自分でできるようになる。

		I 期 (4・5月)	II 期 (6・7・8月)
期のねらい		○戸外で好きな遊びを見つけ、指導者や友達と一緒に楽しむ ○健康で安全な生活習慣を知る ○安全な遊び方を知る	○指導者や友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ ○生活に必要な習慣を身に付ける ○水に親しみ、水遊びを楽しむ
教育的意図をもった働きかけ	運動	・戸外で遊ぶ心地よさや楽しさを味わえるように、指導者が誘いかけ、一緒に遊ぶ ・指導者や友達と一緒に遊ぶことを通して、ダンスや体操等を楽しめるように環境を整える	・砂や泥、水等の感触を楽しみながら遊ぶ中で、開放感を味わえるようにする ・水の感触を味わいながら、水遊びを全身で楽しめるような活動を取り入れる
	基本的な生活習慣	・体を動かす遊びに興味や関心がもてるように、遊びたくなるような場や遊具を用意する	・室内でも安全に体を動かして遊べるような遊具を活用する。
	健康・安全	・身の回りの始末を自分でしようという意欲がもてるように、手順を知らせ一緒にしていく ・手洗い、うがい等を指導者が一緒にしながら知らせていく ・トイレの使い方を知らせ、排泄後の始末を自分でしようとするように励まし、できたときには認め、自信につなげる	・衣服が汚れたり、濡れたりしていることに気づき、自分で着替えられるように促す ・歯の大切さを知らせ、自分から進んで歯を磨けるようにする
	食育	・発育測定之机を捉え、成長への関心や喜びがもてるように話をする ・安全に遊べるように遊具の適切な使い方を知らせる ・安全に園所生活を過ごせるように、必要な約束やきまりを知らせる ・避難訓練では、いつもと違う状況でも指導者の指示を聞き、一緒に行動するように知らせる	・夏の健康な生活に、衣服の着替えや水分補給、休息等が必要なことを知らせる ・安全に水遊びができるように環境を整えたり、約束を知らせたりする ・園・所外に出かける際は、きまりや交通ルールを知らせていく

<家庭との連携>

- ・生活の中で多様な動きをすることや保護者と共に体を十分に動かして遊ぶ重要性を発信する。
- ・基本的な生活習慣や生活リズムを身に付けていけるように協力を図る。
- ・子どもが自分で身の回りの始末ができるように、扱いやすい持ち物の用意を具体的に依頼する。
- ・健康で安全に生活できるように、子どもの様子を伝え合い、情報交換をしていく。
- ・食事が楽しくできるように、食育について情報発信する。また、子どもの様子に応じて箸への移行を知らせる。

Ⅲ期（9・10月）	Ⅳ期（11・12月）	Ⅴ期（1・2・3月）
○友達と一緒に体を十分に動かして遊ぶ	○冬に向けての健康な生活習慣を知る	○体を使って表現することを楽しむ
	○友達と一緒にルールのある遊びを楽しむ	○寒い時でも、戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを味わう
・戸外で伸び伸びと体を動かして遊ぶことで、楽しさを味わえるような場を整える ・周囲の友達と関わりながら進んで体を動かす楽しさを味わえるように音楽や遊具を準備する ・少し頑張ったらできるという目標がもてるような運動遊びを考えていく	・継続して運動遊びが楽しめるように環境を整える	・体を使って表現することを楽しみながら、いろいろな体の動きに気付けるようにしていく
事例 21	・寒いときでも戸外で体を動かす遊びを継続して取り入れる ・園所外に出かける活動を通して、長い距離や坂道、階段等いろいろな場所を歩く経験を積み重ねていくようにする	・進級に期待をもち、4・5歳児の遊びをしてみたいという意欲がもてるようにしていく
・身の回りの始末を自分でしようとする姿を見守ったり認めたりする ・手洗い、うがいの習慣が身に付くように、繰り返し言葉をかけていく	・身の回りの始末ができたことを認め、自信につなげていく	・見通しをもって身の回りの始末を自分でできるように励ましたり認めたりする
・指導者が一緒に衣服の調整をしながら、寒さや暖かさに応じて衣服を調整することを知らせる		
・手洗い、うがいを丁寧にするすることで、かぜ様疾患等の予防になることを知らせる		
・休息や水分補給をしっかり取るように配慮する ・けがをしたときや気分が悪くなったときは、指導者に知らせるように促す ・楽しく安全に運動遊びができるように、約束や遊具、用具の安全な使い方を確認する	・安全に気を付けて冬の遊びが楽しめるように環境を整えたり、約束を知らせたりする	
	・園所外に出かける際は、道の端を並んで歩いたり、信号を守ったりするなどのきまりや交通ルールが身に付くように促す	
・食事の準備や片付けを一人でできるように、励ましたり認めたりする ・箸を使って食べられるように、箸の使い方を知らせる ・いろいろな食材を食べることで成長し、体が元気になることを知らせ、苦手な物でも食べようとする気持ちがもてるようにする		

(3) 4歳児

4歳児のカリキュラム

<発達の姿>

- 身の回りの環境に関心をもち、意欲的に活動し始める。
- 一人より友達と一緒に活動することを好むことが多くなり、人と関わることによる育ちが顕著になってくる。
- 指導者が一人ひとりの思いに寄り添うことで、素直に友達に思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりできるようになり、自分の思いと相手の思いの違いに気付き、感情をコントロールできるようになってくる。
- 異年齢の友達への親しみが増し、5歳児への憧れや年下の友達への思いやりの気持ちをもつようになる。
- 物事への興味関心が高まり、道理や順番等を理解し始める。
- 自分でできることが増え、自分からしようとする姿が多く見られる。

			I 期（4・5月）	II 期（6・7・8月）
期のねらい			○新しい環境や友達との生活に慣れ、喜んで登園所する ○園所生活に必要なきまりや習慣を身に付ける	○友達や周囲の環境に興味をもって生活する ○自分で好きな遊びを見つける
子どもの育ち		知	○いろいろな人、物、事等の環境に関心をもち始める ○園所生活の中でいろいろな印や文字に興味をもつ ○並べたり比べたりして、数量や図形に関心をもち	○見たこと、思ったこと、感じたことを表現し、伝え合う
		徳	○新しい環境に慣れ、安心感をもつ ○友達と楽しく生活する中できまりや約束を守る大切さに気付く ○指導者や友達に親しみや信頼感をもつ	○園所生活のリズムを身に付け、自分でできることは自分でする ○ルールのある遊びを楽しむ
		体	○自分の好きな遊びを見つける ○健康生活に必要な習慣を知り身に付ける	○水に親しみ、水遊びを楽しむ ○夏の遊びを存分に楽しむ ○雨の日の過ごし方を知り、室内で安全に活動する
教育的意図をもった働きかけ	知	言語	・指導者や周囲の人の話を聞く大切さを知らせる ・生活の中で必要な言葉や挨拶に気付き、使えるように指導者がモデルとなって示す ・絵本に親しみをもち、イメージを広げて楽しめるように読み聞かせをする	
		思考	・身近な自然に興味をもてるようにする ・物の色や形に気付いたり、興味をもてるようにしたりする	・物の特性や数に興味をもてるようにする
		創造	・身近な素材の感触や物の変化の不思議さに気付けるようにする ・表現活動を楽しめるように、音やリズムを感じる機会をつくり、指導者も共に楽しむ	・自分の思いを表現できるように、かいたりつくったりする活動を取り入れる
	徳	人と関わる力	・園所生活を安定して送ることができるように寄り添い、環境を整えたり言葉がけをしたりする ・いろいろな友達とのふれあいを楽しめるように交流や活動の機会をつくる ・機会を捉え国旗、国歌に関心がもてるようにする	・友達との遊びが広がるように指導者が仲立ちをする ・挨拶や返事をする気持ちよさを感じられるようにする
		規範意識	・自分で持ち物の始末ができるように励まし、環境を工夫する ・順番に並ぶ、交代して使うなどのきまりを知らせる	・遊具や用具の使い方、片付け方を知らせる ・公共のマナーや交通ルールを守るように、機会を捉えて知らせる
		生命の尊重	・誕生を祝い気持ちを伝える ・草花や小動物の世話ができるようにする	・身近な動植物に触れ、命の大切さに気付くようにする
	体	運動	・戸外の遊びを存分に楽しめるように環境を整える	・水の感触を存分に味わえるようにする
		基本的な生活習慣	・健康な生活リズムが身に付くようにする ・手洗い、うがいの仕方を知らせる	・歯の大切さや歯磨きの仕方を知らせる ・着替えや汗の始末を自分でできるようにする
		健康・安全	・けがや気分が悪くなったときは、自分で指導者に知らせるようにする ・避難訓練等の安全指導を実施し身の守り方を知らせる	・安全に水遊びが楽しめるように約束やきまりを確認し、適時気付くように知らせる
		食育	・楽しく食事ができる雰囲気をつくり、食事の仕方やマナーを知らせる ・野菜の生長に関心をもち、収穫や食する喜びを味わえるようにする	